

第1章 ブルドッグとは

1.1 イヌの品種とブルドッグ

イヌに多くの種類があることは、だれでも知っている。例えば図 2.3-1 に代表的なイヌの種類が示されているが、それぞれの種類は体の大きさや顔つき、体の各部分の形や色、それに習性が互いに大きく異なっているので、それぞれを簡単に区別できる。このような種類のことをイヌの品種または犬種 (dog breed) と言う。その品種に属するそれぞれの個体は互いに共通する特徴を持っていて、他の品種の個体とは容易に区別できるので、そのような個体のつくるグループが品種なのである (コラム 2.1 のように、「種」や「亜種」とはかなり意味が異なっている)。ブルドッグは、このようなイヌの品種の一つであり、次の節で述べるように他の品種とは異なる独自の特徴と習性をもっている。品種は人間が管理することによってその特徴や習性が保たれているので、人間が管理しなくなると異なる品種同士が交配して、「雑種」が生まれることになる。それが繰り返されると次第にもとの品種の特徴や習性が失われていく。

イヌの品種は 700~800 もあると言われているが、それらは人間が自分たちの目的や好みに合わせて作り出したものである。その中には、狩猟や牧畜の手助けをすることが目的のものや見張りをすることが目的のもの、イヌ同士や他の動物と闘わせることが目的のもの、ソリを引くことが目的のもの、単にペットとして飼われることが目的のものなど、さまざまなものがある。特にペットの場合は、その時々の人間の好みに合わせて作られたものも少なくない。だから、イヌの品種は人間の新しい目的や好みが生まれれば新しく作り出され、その目的にさらに適合するように改良されて、さらに新しい品種が生まれることもあるが、逆にそのような目的や好みが無くなったり、なくなってしまうと、その品種は消滅してしまうということが、



図 1.1-1 イギリスで売られていたシール。ブルドッグがユニオンジャック（英国国旗）の服を着ている。どちらもイギリスを象徴する。このような取り合わせは古くからあったようで，Jenkins and Mollett (1997) にはブルドッグとユニオンジャックが描かれた古い絵葉書が紹介されている。

これまでしばしば起こった。そのような点で自然界での種や亜種では考えられないくらいの短い時間に、イヌの品種は発生と消滅を繰り返してきたと言えるであろう。

ブルドッグ (bulldog) という言葉を英語の辞書*で調べてみると、イヌの品種の一つを表す名詞のほかに、「勇猛でねばり強い」という意味で形容詞として使われると書かれている。さらにイギリス人を指す俗称として“the bulldog breed”という言葉が出ているのも興味深い。このような言葉があるのは、ブルドッグという品種 (breed) の性質がイギリス人の気質と共通すると思われるからであろう (図 1.1-1)。ブルドッグはブル (bull = 雄ウシ) + ドッグ (dog = イヌ) であり、ウシと闘うことを目的として、「勇猛でねばり強い」イギリス人によって作り出されたイヌの品種なのである。

* 例えば研究社「新英和大辞典」第 6 版 (2002)。

コラム 1.1 犬種とその分類

犬種（イヌの品種）とは、それに属する親同士が交配した場合、親と同じ身体的特徴と習性を持った子孫が生まれるイヌの個体群のことで、現在世界中には非公認のものを含めて 700～800 もの犬種があると言われている。もっとも消滅してしまった犬種もあれば、新しく承認される犬種もあるので、その数は常に変動している。

このような犬種を承認する団体が世界中にはいくつもある。イギリスには 1873 年創立のケンネルクラブ（Kennel Club；略称 KC）、アメリカには 1883 年創立のアメリカケンネルクラブ（American Kennel Club；略称 AKC）がある。また、イギリス以外のヨーロッパ諸国で 1911 年に創設され、その後多くの国が加盟した国際畜犬連盟（Fédération Cynologique International；略称 FCI）があって、これらがその代表的な団体である。わが国には 1948 年に全日本警備犬協会として設立され、後に改称したジャパンケンネルクラブ（Japan Kennel Club；略称 JKC）があり、国際畜犬連盟に加盟している。これらの団体は、それぞれが定めた基準（犬種標準）にもとづいて血統書を発行し、犬種の保存に努めている。

上に述べたように非常に数の多い犬種を整理し、理解しやすくするために、これらの団体は独自に犬種の分類を行っている。ケンネルクラブの分類では、獣猟犬群（Hound Group）、鳥猟犬群（Gundog Group）、穴居害獣駆除犬群（Terrier Group）、伴侶犬群（Utility Group）、作業犬群（Working Group）、牧羊犬群（Pastoral Group）、愛玩犬群（Toy Group）に分けられている。このような分類法はそれぞれの犬種の用途や役割によるもので、自然界に存在する多種多様な生物を分類するための近代的な分類学（2.1 節参照）の基本的な考え（後述の自然分類）とは異なっていて、人為分類と言える方式である。一般の人々にはこの方式がわかりやすい。

それに対して国際畜犬連盟の分類方式は、それぞれの犬種の系統関係・類縁関係、つまり祖先と子孫の関係や親戚関係にもとづくもので、近代的な分類学の自然分類の考えに従ったものである。この方式による分類を表に示したが、この分類によればブルドッグは第 2 グループに属する。ジャパンケンネルクラブはこの方式を採用している。しかし市販の本にはわかりやすさから、用途や役割による分類を用いているものが多い。

ジャパンケンネルクラブは、2006 年 11 月現在で国際畜犬連盟の公認犬種 337（正

式公認 325, 暫定公認 12) のうち, 184 犬種 (うち暫定公認 3) を公認し, 登録している.

表 国際畜犬連盟の採用している犬種の分類

第 1 グループ	シープドッグ (Sheepdogs) とキャトル・ドッグ (Cattle Dogs). ただしスイス・キャトル・ドッグは除く. 例としてコリヤーやシェパード, コーギーがあげられる.
第 2 グループ	ピンシャー (Pinscher), シュナウザー (Schnauzer), モロシア・タイプの品種 (Molossoid Breeds)*, スイス・マウンテン・ドッグ (Swiss Mountain Dogs), スイス・キャトル・ドッグ (Swiss Cattle Dogs) およびその他の品種. ブルドッグやセント・バーナード, グレート・デーンはこのグループに属する.
第 3 グループ	テリア (Terriers).
第 4 グループ	ダックスフント (Dachshunds).
第 5 グループ	スピッツ (Spitz) とその原始的なタイプ (Primitive types). チャウ・チャウやシベリアン・ハスキーはこのグループに属する.
第 6 グループ	セントハウンド (Scenthounds) とそれに関連する品種. ビーグルはこのグループに属する.
第 7 グループ	ポインティング・ドッグ (Pointing Dogs). ポインターやセッターが属する.
第 8 グループ	レトリバー (Retrievers), フラッシング・ドッグ (Flushing Dogs), ウォーター・ドッグ (Water Dogs).
第 9 グループ	コンパニオン・ドッグ (Companion Dogs) とトイ・ドッグ (Toy Dogs). 例としてパピヨン, ペキニーズ, シー・ズーがあげられる.
第 10 グループ	サイトハウンド (Sighthounds). グレーハウンド, サルキー (サルキー), ボルゾイなど.

* ブルドッグの祖先を含むグループ (モロシアについては 3.1 節参照).

1.2 ブルドッグの特徴と習性

ブルドッグは, イギリスで作り出されたのでイングリッシュ・ブルドッグ (English Bulldog) とも呼ばれる. これに名前がよく似た品種にオールド・イングリッシュ・ブルドッグ (Olde English Bulldogge) があるが, この品種は 20 世紀になってからアメリカで古い時代のブルドッグを復活させる目的でいろいろな品種をかけ合わせて作り出されたもので, 本来のブルドッグとは特徴や習性が異なり, コラム 1.1 の表の犬種の分類では第 9 グループに属する (ブルドッグは第 2 グループ). 同じような試みは 20 世紀前半のドイツで, 当時すでに絶滅していたオーロックス (コラム 4.1) を復活させる目的でいろいろなウシの品種をかけ合わせて行われたことがある.

ここでは, 現在世界中で飼われている本来のブルドッグについて, その特徴を図 1.2-1 や図 1.2-2 を見ながら説明しよう (以下の文中の①～⑦は図

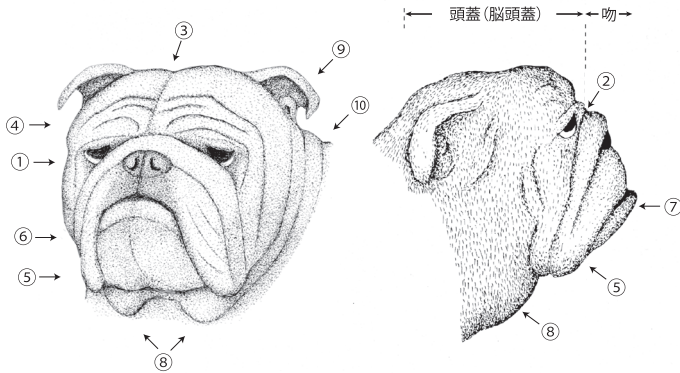


図 1.2-1 ブルドッグの頭部の特徴. 図中の番号は本文の説明と対応している.

中の番号と対応している).

ブルドッグは中型犬で肩の高さが 31~36 cm, 体重は雄の成犬で 24 kg 前後, 雌の成犬では 21 kg 前後である, 毛は短く密生し, 体の色は茶色や白色, またはそれらが混った斑ら模様などさまざまなものがある.

頭部は体全体の大きさに比べて相対的に大きい (図 1.2-2). 頭部は, 図 1.2-1 のようにその前部の吻^{ふん} (muzzle または rostrum) と後部の頭蓋^{とうがい} (骨格では脳頭蓋 brain case と呼ばれる) が, 顔面を横切る「しわ」のつくる溝ではっきり分かれている. 吻の部分は著しく短縮していて, 頭部は極端な短頭型である (コラム 2.3-1 参照). 頭蓋は丸みを帯び, 左右に幅が広い. 目は頭部の前端近くで頭蓋の比較的下の方についていて, 耳からは遠く離れており, 眼球の下部には白目が見えている (①). 左右の目は広く離れており, それらの間にあるストップ (stop) と呼ばれる窪み (②) から上方へ溝が延びている (③). また眼の上方には側方へ延びるしわが見られる (④). 頬は上唇を覆って垂れ下がっていて, 下顎の下縁より下まで延びている (⑤). この頬の部分には何本もの溝が見られることが多い (⑥). 下顎は上顎より前方に突出しているのが普通で, この状態をアンダーショット (undershot) と言う (⑦). 下顎の後下方には皮膚のたるみがあり, これをデュラップ (dewlap) と言う (⑧). 耳は比較的小さく, 頭蓋の上部についている (⑨). 耳介にはいろいろな形のものがある (図 1.3-1). 先端が折れ曲がっているが, 内部が見えて全体がバラの花のような形になっているもの

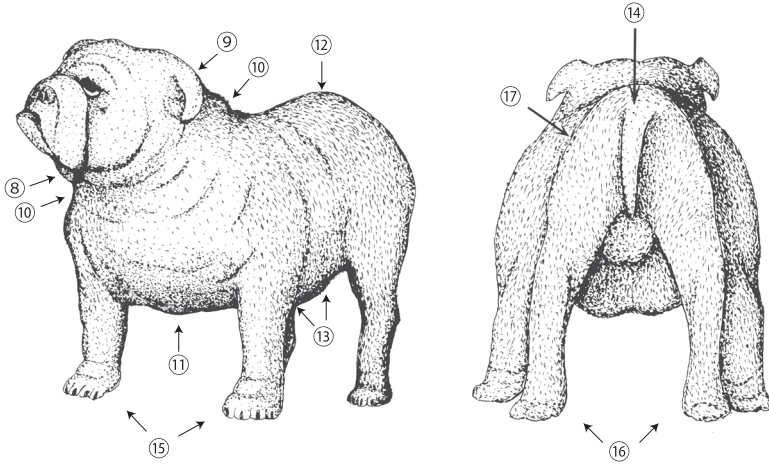


図 1.2-2 ブルドッグの体の特徴. 図中の番号は本文の説明と対応している.

(ローズ・イヤー rose ear) が代表的なものである.

頸部は太短く頑丈で、しかも肉厚でしわがある(⑩). 胴体も太く頑丈で、胸は非常に幅が広い(⑪). 背中では肩の部分から後方へ次第に高くなり、腰の部分で最も高くなっていて、全体としてゆるやかな曲線を描いていることが多い(⑫). これは後肢が前肢より長いことによる. 胴体の下面では、肋骨のある部分は頑丈で、その後方にある腹部はよく切れ上がっている(⑬). 尾は短く、その根元は太いが先端に向って細くなっている(⑭). 尾の形には、まっすぐに垂れ下がっているものや巻いているものなど、さまざまな形のものがある (図 1.3-2).

前肢は太短く頑丈で、左右の間隔が非常に広い(⑮). それに比べて後肢は細く、左右の間隔も狭い(⑯). そのため腰の幅は肩の幅より著しく狭いので、雌では産道が狭く、仔を生む時は難産で、帝王切開で出産することが多い(⑰). 仔の頭蓋が大きいことも難産の原因の1つとなっている. 歩き方は独特で、尻を左右に回転させるように振りながら歩く. この歩き方をローリング・ゲイト(rolling gait)と言う.

以上のような体の特徴は、4.3 節で述べるように、ウシと闘うために作り出された特徴なのである. 一方、ブルドッグの習性はウシと闘うためにももとはは獐猛であったが、現在ではその恐ろしげな顔つきにもかかわらず、

やさしくおとなしいので人間の子供とも仲良くつき合えるイヌとなっている（第7章参照）。そのため、番犬には適さない。散歩などの運動もほどほどでよく、室内でも飼うことができ、比較的飼いやすい品種で愛好家も少なくない。また、飼い主に対する忠誠心が強く、その体型に似合わず、機敏で果敢に行動する。寿命は特異な体型のため、同じ大きさの他の品種と比べてかなり短く、7～9年と言われている（コラム1.2）。

コラム1.2 イヌの年齢と人間の年齢

イヌは人間と比べるとはるかに短命である。イヌの中で雑種と純粋な品種を比べると、雑種の方が一般に長生きと言われているが、雑種でもその平均的な寿命は13年ほどである。一方、純粋な品種の中で、ブルドッグは本文で述べたように特に短命であるが、ダックスフントのように寿命が14～17年と雑種の平均より長いものもある（表1）。イヌの年齢を人間の年齢と対応させると、およそ表2のようになる。これを見るとイヌは加齢が驚くほど早いことがわかる。生まれて1年ほどで性的に成熟し、6年ほど経つと人間で言う中年の域に達し、10数歳を過ぎると老年になる。

表1 いろいろなイヌの品種の寿命
(Fogle, 2000 のデータによる)。

品 種	寿 命 (年)
コリー (1)	12-14
ウェルシュ・コーギー (1)	12-14
ブルドッグ (2)	7-9
セント・バーナード (2)	9-10
グレート・デーン (2)	10-12
ブル・テリア (3)	11-13
ウェルシュ・テリア (3)	14
ダックスフント (4)	14-17
チャウ・チャウ (5)	11-12
シベリアン・ハスキー (5)	11-13
ビーグル (6)	13
ゴールデン・レトリバー (8)	12-13
パピヨン (9)	13-15
ペキニーズ (9)	12-13
シー・ズー (9)	12-14
グレーハウンド (10)	10-12
ボルゾイ (10)	11-13

表2 イヌの年齢と人間の年齢の
おおよその対応関係
(Brearley, 1985 による)

イヌ	人 間
0.5 歳	10 歳
1	15
2	24
3	28
4	32
5	36
6	40
7	44
8	48
9	52
10	56
15	76
21	100

(1)～(10) は、コラム1.1の表に示したそれぞれの品種の属するグループの番号（第1～第10グループ）。

1.3「良い」ブルドッグーブルドック・スタンダードー

以上のような一般的特徴をもったブルドッグの中にも、当然個体差があり、人間の側から見て良いブルドッグとそうでないものがある。良し悪しを決める基準は人為的で主観的なものではあるが、ケンネルクラブや国際畜犬連盟などの団体が良いブルドッグの基準（ブルドッグ・スタンダード）を決めている。これらの団体についてはコラム 1.1 を参照されたい。そのような基準は、全体的な外観、習性・性格、体の各部分の特徴、大きさ、歩き方について細かく決められていて、ドッグショー（イヌの品評会）での採点基準などに用いられている。そのような基準で一般的なものを紹介しよう。

体重は重すぎてはいけない。雄で 30 kg、雌で 25 kg を超えるものは良くない。上顎と下顎の咬み合わせは、上下がきっちり咬み合うのではなく、下顎が突出して受け口になったアンダーショットが良い。また、口を閉じたとき歯が見えないのが良い（図 1.2-1）。耳の形には、図 1.3-1 のように直立した耳(erect ear)、チューリップ形の耳(tulip ear)、前述のローズ・イヤー、ボタン形の耳(button ear)、大きな耳(large ear) があるが、ローズ・イヤーが良いとされる。鼻の色は黒いほど良い。下顎の後下方には、たるみ（デューラップ）が左右にそれぞれ垂れ下っていなければならない。背

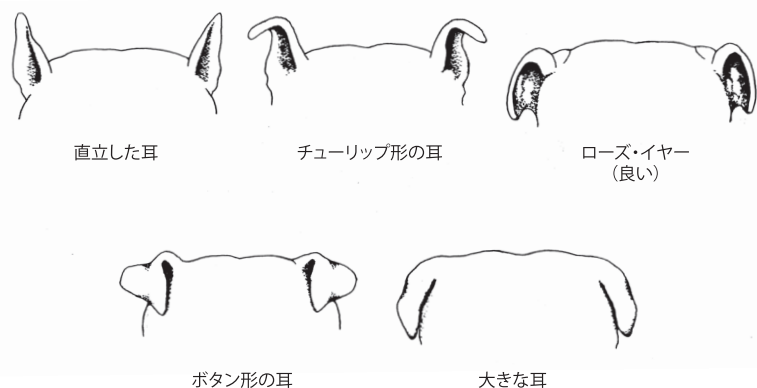


図 1.3-1 ブルドッグの耳の形 (Hanes, 1973 の図を簡略化)。「大きな耳」は側方から見ると大きく見える。

中の形には、図 1.3-2 のように背中の中央が高く尾に向って低くなっているラクダ形の背(camel back), 上下に強く波打った背(sway back), 直線的な背(straight back), それに背中がゆるやかな曲線を描き腰の部分が最も高くなっているローチ・バック(roach back)があるが(図 1.3-2), ローチ・バックが良いとされている。尾は付け根が高い位置にあるものや、尾が後上方にまっすぐ延びるものは良くない(図 1.3-2 の左下と右上)。尾の付け根が腰よりかなり低い位置にあり、下方にまっすぐ延びているものが良い(図 1.3-2 の右下)。尾は螺旋状にひと巻きしたスクリュー・テイル(screw tail) も良いとされることがある(図 1.3-2 の左上)。

前肢とその付け根の胸部は、前方から見て筋骨がたくましく、肩幅が広く左右の前肢の間隔が広いものが良い。後肢は後方から見てまっすぐ下方に延びているものが良く、O 脚や X 脚は良くない。

性格は、優しく落ち着いていて、しかも決断力があり勇敢でなくてはならない。扱いにくかったり、凶暴で攻撃的であってはならない。また、振舞いは穏やかで威厳がなくてはならない。

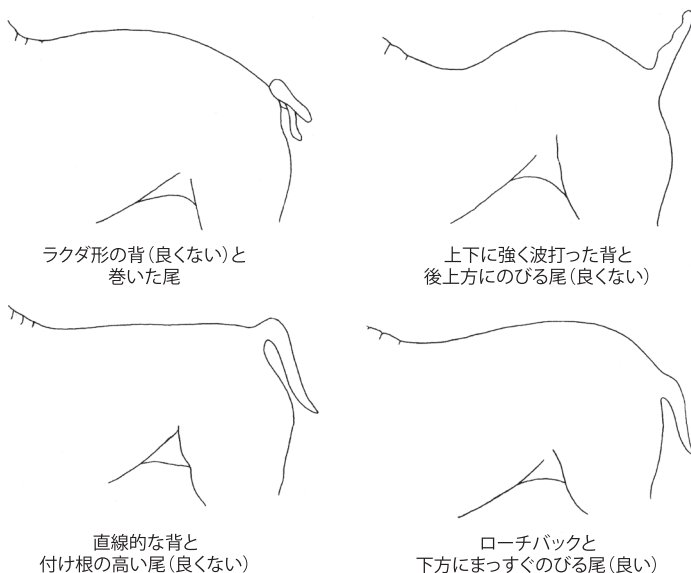


図 1.3-2 ブルドッグの背中と尾の形 (Hanes, 1973 の図を簡略化)。